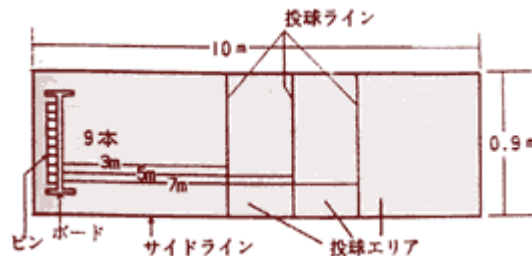


## ビーンボーリングルール

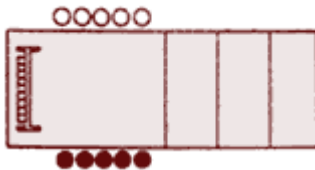
- 用具 ピンセット、ボール.....4 (赤・白各 2)、レール (0.9m×10m)



- 場所 0.9m×10m のレーン



### ▼団体戦の並び方



### ●人数

シングル(計 2 名)、ダブルス(計 4 名)、10 名(5 対 5)の団体戦も可能

### ●ボールの転がし方

ボールは、決められた投球ラインと一つ後ろの投球ラインの間(投球エリア)で投球動作し、投球する。バックスイングと同時に左足を踏み出し(左ききの人は右足)腰の安定を保って踏み出した足にそってボールを転がす。(注)転がした後、両足とも投球ラインから出てはいけない。

### ●ゲームの進め方

室内ボウリングとほぼ同じ。プレーヤーは、ボールを転がして、9本のピンに当て、反転したピン数を得点とする。ただし、反転後リバウンドし、元にもどったピンは得点として加算されない(ガーター)。まず、ジャンケンによって先攻(赤)後攻(白)を決め、主審のコールにより、プレー開始。プレーヤーは、1フレーム2球(同色球)ずつ投球する。投球ラインからピンまでの長さは3m、5m、7mで、この3つの投球ラインから3フレームずつ、すなわち9フレーム投げて1回のゲームとする。シングルス、ダブルスとも同様であるが、申し合わせ事項をもうけて9フレームとも投球距離を等距離にしてもかまわない。

### ●勝敗の決定

9本のピンのうち、中央にある無表示のピンは、ストライクピンと呼び、最初の投球で反転した場合は、20点(ストライク)となる。また2投目でストライクピンを反転した場合はスペアとなり、10点の得点になる。したがって、1投目

にストライクピンが反転し、2投目で5の表示ピンが反転した場合の1フレームの得点は、25点となる。ストライクやスペアをとっても、次のフレームには加算されず1フレームずつの得点を合計して競い合うところが、一般のボウリングとは異なるところである。

●反則

投球動作中の反則(ファール)。以下の場合、ファールとなり、取得した得点は無効。

1. 投球動作中に投球ラインを踏んだり、越えた場合。
2. 転がした後、足が投球ラインから出てしまった場合。ただし、投球ラインから両手が出ていてもかまわない。
3. 投球中、手から離れレーンに落ちたボールの位置が、投球エリア外だった場合。

(注) オンラインもファールとみなす。



●審判員

審判員は、主審1名、副審1名とする。

**主審**：プレーヤーの右、3mの投球ライン付近に位置し、反則のジャッジや副審からうけた有効得点をスコアカードに記入するとともに、ゲームがスムーズに楽しく、気持ちよく進行できるように責任を持って運営することを、主な任務とする。

**副審**：プレーヤーの左、ボードの横に位置し、ゲームの進行中、反則やピンの影響によってボード上に変化が生じたときは、速やかに元の状態に戻し、安全を確認して、主審に試合進行を告げる。また、有効得点を逐次主審に報告する。

(注) 試合中、副審以外はピンに触れることはできない。

●スコアカードの使い方・事例

ピン・ボウリング 投球距離	3 m			5 m			7 m			合計
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
使用ボール【赤】 1投目	2	▲	3	5	5	2	8	▲	5	
2投目	3	2	▲	5	▲	0	—	0	0	100
3投目	5	22	13	10	15	2	8	20	5	



ストライク  
20点



スペア  
10点



ファールマーク

複数のピンが反転した場合は、反転したピン全てが得点となる。

1投目で反転したピンはそのまま残し、2投目を投げる。